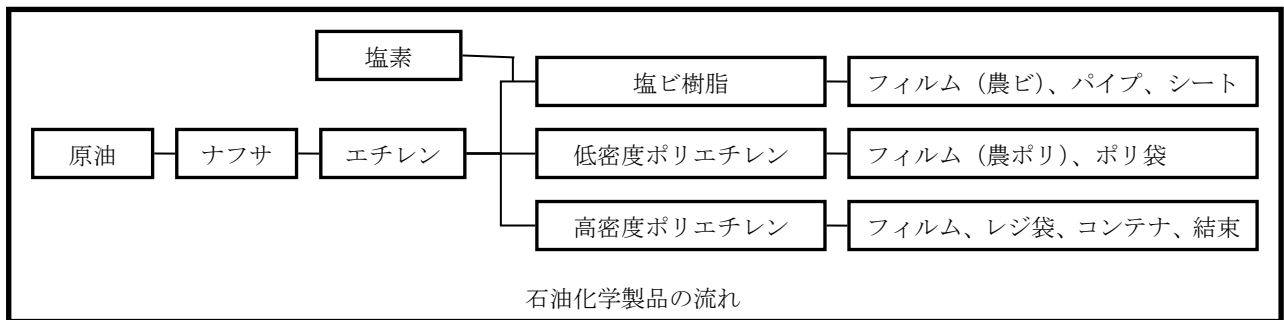


農 業 資 材 情 勢

1. 被覆資材情勢

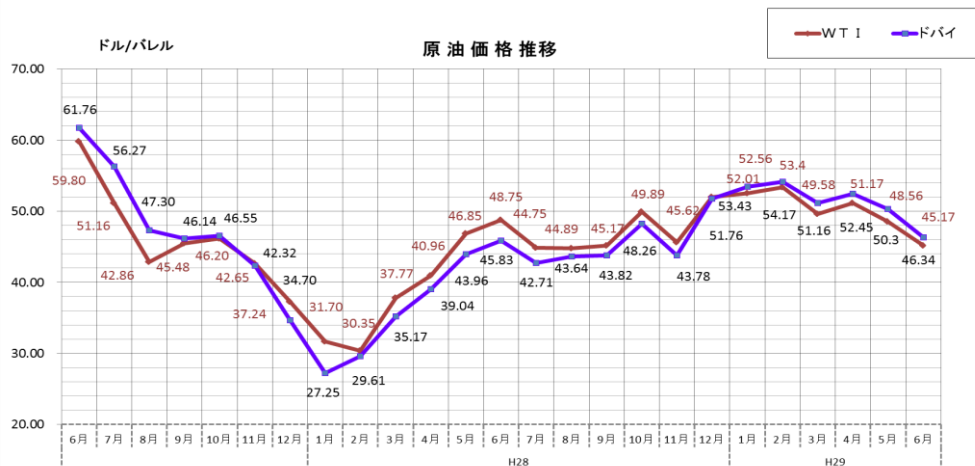


(1) 原油価格

原油価格の世界的指標である WTI 原油価格につきましては、平成 27 年以降中国や欧州での需要が減少したことや OPEC の減産見送りに加え、アメリカのシェールガス生産量が高止まりしていることから供給過剰となり、平成 28 年 2 月には一時 30 ドル/バレル台まで下落しました。

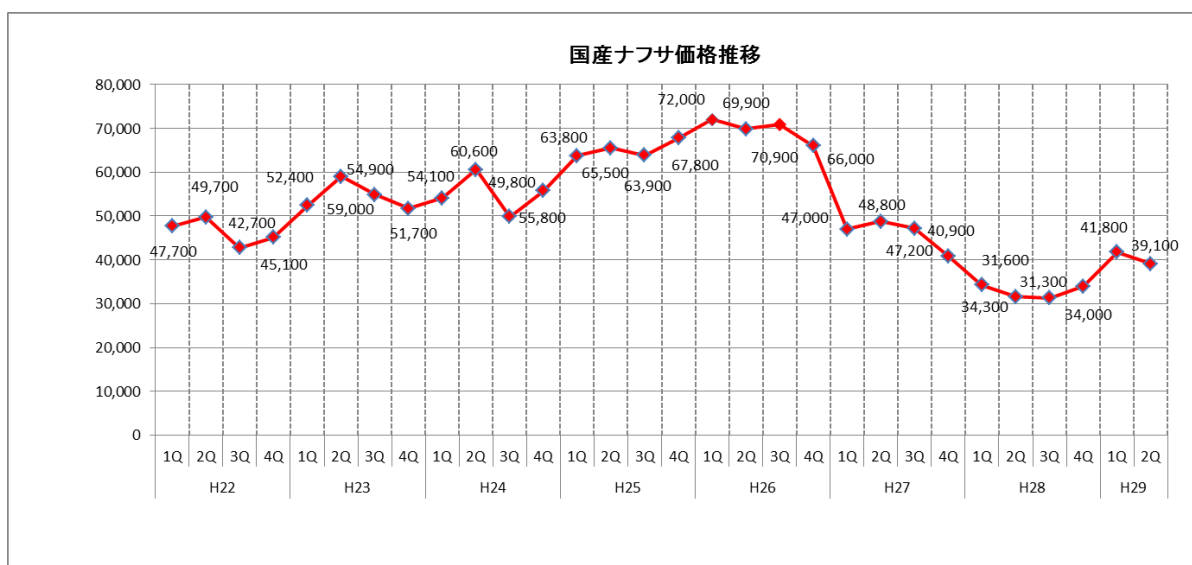
原油価格の下落を受け平成 28 年 11 月末の OPEC の定時総会で産油国の減産最終合意が行われ、平成 29 年 2 月の価格は 53.4 ドル/バレルまで上昇しましたが、その後も供給過剰傾向は続いており、平成 29 年 6 月価格は 45.2 ドル/バレルに下落しております。

今後については、平成 29 年 7 月末に OPEC が協調減産の追加策を講じることを発表し、WTI 原油先物で約 2 か月ぶりに 50 ドル/バレルを上回るなど価格が 50 ドル前後にて堅調に推移するとの見方が強まっております。



(2) 国産ナフサ価格

石油化学製品の基礎原料となる国産ナフサ価格につきましては、原油価格が下落基調に転じたことを反映し、平成 29 年 4 月～6 月 (2Q) は 39,100 円/k1 となりました。また、直近 6 月の輸入価格速報値についても、前月から 4.6%下落し 35,782 円/k1 となり原油価格と連動し下落しております。平成 29 年下期は円高傾向で推移するとの見方が強く、平成 29 年 7 月～9 月 (3Q) の価格もさらに下落するとの見方が強まっています。



(3) 物流費

物流費につきましては、運転手不足や規制強化の影響を受け、強含みの情勢に変化はありません。国土交通省は、7 月からトラック運転手の長時間労働を是正するため、荷物の積み込みで生じる待機時間の記録を義務化する方針を打ち出すなど今後も注視が必要となっております。

(4) 原材料価格動向

ア. 塩ビ樹脂

農業用ビニールの主原料である塩ビ樹脂につきましては、国内大手メーカーが平成 29 年 4 月に約 10%の値上げを打ち出し、浸透している模様です。また経済成長による塩ビ管需要の増加により、インドやベトナム向けの輸出量が増加し、アジア向け輸出価格は高騰しております。9 月以降についてはインドの雨季が明け、パイプの需要がさらに拡大し、堅調に推移すると見込まれております。

イ. 低密度ポリエチレン樹脂

農業用ポリエチレンフィルムの主原料である低密度ポリエチレン樹脂につきましては、ナフサ価格の下落に伴い弱含みで推移しておりました。しかし、国内や海外（主にアジア市場）での需要が堅調であることから、ナフサの下落幅に比べ下げ幅は小幅な動きとなっております。

その後、直近の国産ナフサ価格の上昇を受け、平成 29 年 3 月からの約 10% の値上げを打ち出し、浸透している模様です。7 月以降についても価格が高止まりしており、今後も堅調に推移すると見込まれます。

(5) 製品需給状況

ア. 農ビ

平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月までの全国の農ビ出荷実績（累計）につきましては、前年比 99%となっております。北海道につきましては、前年比 97%と全国平均を下回っております。

イ. 農ポリ

農ポリは、業界団体による出荷数量の発表は行われませんが、年間出荷数量は 4 万トン前後と思われます。

ウ. 農 P0

平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月までの全国の農 P0 出荷実績（累計）については、前年比 103%となっております。北海道につきましては、前年比 117%と全国平均を上回っております。

平成28年度(4-3月)
農ビ出荷実績(単位:千m)

地区	H27	H28	前年比
北海道	5,178	5,006	96.7%
東北	4,188	4,324	103.2%
関東	25,118	25,273	100.6%
中部	6,440	6,326	98.2%
関西	11,198	10,655	95.2%
九州	26,566	26,419	99.4%
合計	78,688	78,003	99.1%

平成28年度(4-3月)
農P0出荷実績(単位:t)

地区	H27	H28	前年比
北海道	1,906	2,222	116.6%
東北	2,400	2,492	103.8%
関東	6,445	6,406	99.4%
中部	1,933	2,041	105.6%
関西	3,994	4,184	104.8%
九州	6,678	6,742	101.0%
合計	23,356	24,087	103.1%

2. 農業用パイプ情勢

(1) 原料価格動向

ア. 鉄鉱石

主原料である鉄鉱石価格につきましては、指標となる中国向けスポット価格が上昇した結果、平成 28 年 7-9 月期価格は、前期対比約 35%の値上げとなりました。平成 28 年 10-12 月期はほぼ前期横ばいでしたが、平成 29 年 4-6 月期は前期対比約 36%の値上げとなり、鉄鉱石価格は値上がり傾向で推移しておりました。しかしながら、中国での鋼材価格が反落し 4 月以降は前期対比約 14%の値

下げとなっております更に下落する見通しとなっております。

イ. 石炭

主原料である石炭価格につきましては、平成 28 年 10-12 月期の指標となる中国向けスポット価格が高騰した結果、200 ドル/トンと前期比約 2.1 倍の値上げとなりました。

平成 29 年 1~3 月価格についても、前期比約 1.4 倍で決着しており価格が急騰しておりました。直近の価格については、鋼材価格の上昇を受け中国やインドの製鉄所が調達を増やしており、価格が堅調に推移すると見込まれます。

ウ. 鋼板価格

冷延薄板の価格については、平成 27 年 3 月より下落を続け、平成 28 年 4 月~10 月迄は底値となる 64,000 円/トンと低調に推移しておりましたが、その後、自動車向け需要の回復により、右肩上がりに価格が高騰し、平成 29 年 2 月の価格は 74,000 円/トンとなっております。

需要が堅調であることに加え、適正在庫を下回っている状況であること、主原料のコストアップ等の理由から、再値上げも懸念されております。

しかしながら原燃料である鉄鉱石や石炭の下落を受け、再値上げ機運が落ち着くとの見方も出てきております。

以 上